



令和 7 年産

## 気仙沼・南三陸 稲作情報 第 5 号

令和 7 年 7 月 11 日発行

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部・宮城県気仙沼農業改良普及センター

TEL 0226-25-8069 FAX 0226-22-1606

- **幼穂形成期に入りますので、生育ステージを確認し、必要に応じて適期に追肥をしましょう。**
- **斑点米カメムシ類の発生が「やや多」となっているため、7月中旬までに水田周辺の草刈りを実施しましょう。**
- **用水不足時や高温が続くときは、飽水管理を実施しましょう。**

### 1 水稻生育調査ほの生育概況（7月10日調査）

ひとめぼれの草丈は 63.1 cmと、生育量の目安の 56～59 cmを上回りました。茎数も 629.2 本/㎡と、目安の 470～530 本/㎡を上回っています。葉色値は 31.8 と、目安の 38～40 を下回っており、淡くなっています。幼穂長は 8.6 mmで、**幼穂形成期に入りました。**

表 1 水稻生育調査結果（7月10日調査）

| 品 種<br>地区名 | 年     | 田植日  | 草丈<br>(cm) | 茎数<br>(本/㎡) | 茎数<br>(本/株) | 葉色値<br>(GM) |
|------------|-------|------|------------|-------------|-------------|-------------|
| ひとめぼれ      | R7    | 5/14 | 63.1       | 629.2       | 32.6        | 31.8        |
| 気仙沼市本吉町    | 前年比・差 | -6 日 | 110%       | 114%        | 110%        | 93%         |

※生育調査ほの見直しにより、令和 6 年度から管内の調査ほは 1 か所となり、ほ場（担当農家）を変更しています。このため、平年比・差はありません。

### 2 出穂予想

三陸沿岸の幼穂形成期、減数分裂期、出穂期の予測は表 2 のとおりです。ただし、今後の天候によっては生育ステージが変動することもあります。**ほ場で幼穂長を確認し、表 3 により生育ステージを把握することが重要です。**

表 2 生育ステージの予測（令和 7 年 7 月 1 日現在）

| 地帯区分 | 移植時期<br>(田植え盛期) | 幼穂形成期 | 減数分裂期 | 出穂期 |
|------|-----------------|-------|-------|-----|
| 三陸沿岸 | 5/14            | 7/8   | 7/18  | 8/4 |

注 1) 予測条件：①日別平均気温（各アメダス地点のメッシュ農業気象データ）、②移植時期（地帯区分）、③移植時期の葉数（県生育調査ほ＋作況試験ほ「ひとめぼれ」平均 2.9 葉）。④対象品種：「ひとめぼれ」。

注 2) 幼穂形成始期及び出穂期は、「宮城県水稻発育予測プログラム（暫定版）」（東北農研センター）による予測であり、減数分裂期は幼穂形成始期の 10 日後としました。また、気温はメッシュ農業気象データ（農研機構）により、7 月 1 日までは実況値、その後 26 日間は予報値を使用しています。

表 3 幼穂の長さとお穂までの日数の目安

| 生育ステージ |    | 出穂前<br>日数 | 幼穂長<br>(mm) | 葉耳間長<br>(cm) |
|--------|----|-----------|-------------|--------------|
| 幼穂形成始期 |    | 25日       | 1～2         | -            |
| 減数分裂期  | 始期 | 15日       | 30～40       | -10          |
|        | 盛期 | 12日       | 80～100      | ±0           |

注) 葉耳間長：止葉の葉耳とその下の葉の葉耳との間隔によって、出穂前日数を予想することができます。

### 3 今後の栽培管理

#### (1) 水管理

- ・気仙沼管内の田植盛期は 5 月 18 日のため、幼穂形成期を迎えるほ場が多いと思われます。この時期の水不足は幼穂の発育を妨げるため、**中干しは終了しましょう。**
- ・中干し終了後は急激に湛水状態とすると根を傷めるので、最初は走り水とし、その後、間断かん水又は**飽水管理(田面の足跡に水がなくなる頃に水を入れ、土が十分に湿ったら排水する)**としましょう。
- ・飽水管理は、根の健全化と茎の充実への効果のほか、**高温対策として有効です。**

#### 農業用水不足時における今後の水管理について

##### ほうすいかんり 飽水管理のメリット

- ◎限られた用水で実施可能
- ◎根の活力維持
- ◎地温の上昇抑制

稲体の温度が夜間に下がるため、光合成により作られた養分が靱に転流しやすくなる。

**白未熟粒や胴割粒の発生を抑制できる**

##### 高温時の湛水管理の デメリット

出穂期以降の夜温が高いと、「湛水管理」では夜間の水温が下がらないため、稲体の温度も下がらず、光合成で作られた養分を呼吸で消費してしまう。

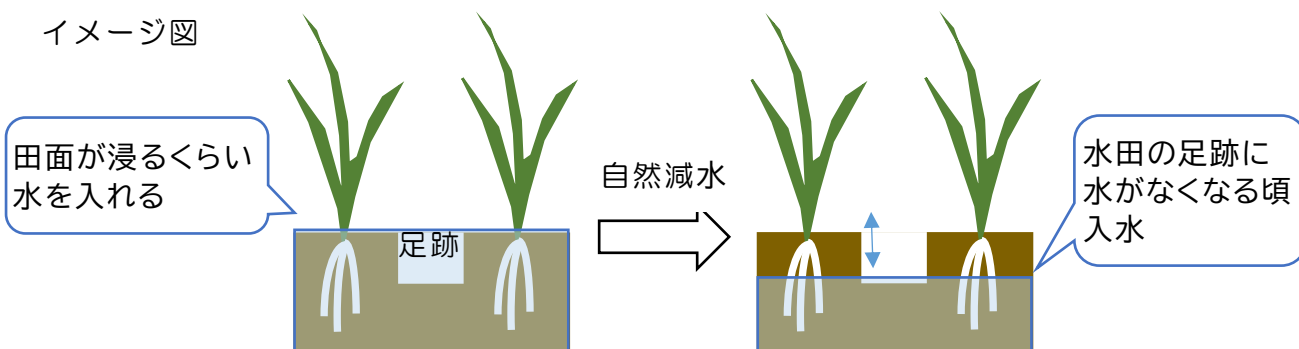
**⇒白未熟粒の発生を助長**

#### (参考) 飽水管理の方法

- ① 水尻を閉める。畦畔からの漏水がないか確認する。
- ② 田面が浸るくらい(ひたひた)に水を入れる。
- ③ 水を止めたら、水尻は閉めたまま、自然減水させる。
- ④ 水田の足跡に水がなくなる頃、又は番水のタイミングで次の水を入れる。  
(目安は3～5日おき)

**※出穂期前後は稲体が最も水を必要とする時期です。飽水管理を徹底し、土壌を湿った状態に保ちましょう。**

#### イメージ図



#### (2) 追肥

登熟期の光合成能力の向上、出穂後の高温による白未熟粒の発生の軽減、玄米品質の向上のため、ほ場ごとに葉色や生育ステージ(幼穂長)を確認して**追肥を実施しましょう。**

表4 各品種における追肥の時期と量の目安

| 品 種     | 窒素施用量(成分量kg/10a)      |                      |
|---------|-----------------------|----------------------|
|         | 幼穂形成期<br>(出穂25日～20日前) | 減数分裂期<br>(出穂15～10日前) |
| ひとめぼれ   | 1                     | 1                    |
| ササニシキ   | —                     | 1.0～1.5              |
| みやこがねもち |                       | 1                    |

### (3) 病害虫防除

#### 【斑点米カメムシ類】

- ・県病害虫防除所の発生予報第5号（7月2日発行）によると、斑点米カメムシ類の発生時期は「やや早い」、発生量は「やや多」となっており、斑点米カメムシ類の防除情報が出されています。
- ・また、7月9日に発表された農林水産省の病害虫発生予報においても、南東北では発生が「多い」と予想されています。
- ・斑点米カメムシ類の水田内への侵入を防ぐため、**水田周辺の草刈りを7月中旬までに実施**しましょう。
- ・ただし、水田畦畔の草刈りを、水稻の出穂前後に行うと水田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるため、**水稻が出穂する10日前までに実施**しましょう。
- ・**薬剤防除は、穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本**となります。

#### 【いもち病】

- ・葉いもち感染好適日を判定するシステム「BLASTAM」によると、管内では**6月24日、26日、27日に感染に好適な条件が出現しています**。ほ場を見回り、発生を確認した場合は、茎葉処理剤で直ちに防除しましょう。
- ・※葉いもち感染好適条件の出現状況（BLASTAM（ブラスタム））は、県病害虫防除所ホームページで確認できます（URL:<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>）
- ・穂いもち防除には、予防効果のある水面施用剤（粒剤、パック剤）を、出穂10日程度前までに散布しましょう。

#### 【紋枯病】

- ・県病害虫防除所の発生予報第5号（7月2日発行）によると、発生量は「やや多」となっています。
- ・出穂期前からの発病は被害が大きくなります。また、前年に発生が多かったほ場では、多発のおそれがあります。
- ・茎葉処理剤による防除又は処理適期は、穂ばらみ期から穂揃期です。要防除水準は、穂ばらみ期の発病株率が「ひとめぼれ」で18%となっていますので、要防除水準に達した場合は直に防除しましょう。
- ・株元に薬剤がよく付着するように十分な薬量で散布してください。

#### 【稲こうじ病】

- ・前年に多発したほ場では注意が必要です。銅剤は予防効果が高く効果的なので、出穂20～10日前に防除を実施しましょう。

## 4 金のいぶき

### (1) 調査ほでの生育状況

茎数は、生育量の目安（570～620本/㎡）の範囲です。葉色値は38.2で、前回調査（41.0）から低下しました。幼穂は確認されませんでした。

表5 生育調査結果（7月10日調査）

| 品 種<br>地区名       | 年              | 田植日         | 草丈<br>(cm)  | 茎数<br>(本/㎡) | 茎数<br>(本/株)  | 葉色値<br>(GM) |
|------------------|----------------|-------------|-------------|-------------|--------------|-------------|
| 金のいぶき<br>気仙沼市本吉町 | R7             | 5/30        | 56.7        | 573.5       | 35.4         | 38.2        |
|                  | 前年比・差<br>平年比・差 | -2日<br>+11日 | 108%<br>97% | 88%<br>%93  | 104%<br>111% | 98%<br>113% |

※令和3年から設置のため、平年値は令和3～6年度の4か年平均の値。

※調査ほ場は、前年から場所を変更しています。

### (2) 今後の栽培管理

- ・減数分裂期の葉色値30～32程度に維持するため、幼穂形成期（幼穂長1～2mm）に窒素成分で1kg/10a、減数分裂期（幼穂長30mm～120mm）に窒素成分で1kg/10a程度追肥しましょう。
- ・いもち病に弱いので、予防防除に努めるとともに、発生を確認したらすぐに茎葉処理剤で防除しましょう。

## 5 乾田直播栽培

### (1) 調査ほでの生育状況

草丈、茎数、葉色値の全ての項目で前年を上回り、順調に生育が進んでいます。なお、幼穂は確認されませんでした。

表6 水稻生育調査結果（7月10日現在）

| 品 種<br>地区名       | 年           | 播種日         | 苗立率<br>(%)    | 草丈<br>(cm)   | 茎数<br>(本/㎡)   | 葉色値<br>(GM)  |
|------------------|-------------|-------------|---------------|--------------|---------------|--------------|
| ひとめぼれ<br>気仙沼市本吉町 | R7<br>前年比・差 | 3/27<br>+2日 | 67.7%<br>118% | 56.7<br>112% | 523.5<br>156% | 42.4<br>118% |

※調査ほ場は、前年から場所を変更しています。

### (2) 今後の栽培管理

前述の「4 今後の栽培管理」を参照。

## 6 気象の概況

6月以降は平均気温及び日照時間が、平年を上回って推移しました。梅雨入りは平年より2日遅い6月14日でしたが、6月以降は、降水量が平年を大きく下回っています。

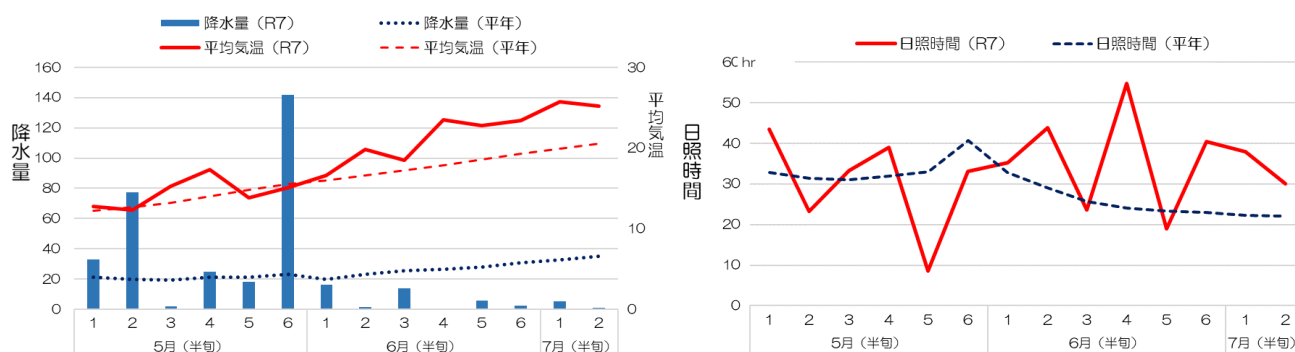


図1 気象経過図（気仙沼アメダス：5月1日～7月10日）

## 7 高温に関する早期天候情報（東北地方）

（令和7年7月10日 仙台区気象台発表）

東北地方 7月16日頃からかなりの高温

東北地方では、最近1週間以上、気温のかなり高い状態が続いています。向こう2週間の気温も、暖かい空気に覆われやすいため、かなり高い日が多い見込みです。

気温が1年を通して最も高い時期ですので、熱中症の危険性が高い状態が続きます。引き続き、屋外での活動等では飲料水や日陰を十分に確保するなど熱中症対策を行い、健康管理に注意してください。また、農作物や家畜の管理等に注意してください。

○農業作業中の熱中症を予防しましょう。

○宮城県農薬危害防止運動実施中（6/1～8/31）

次回の稲作情報の発行は、令和7年7月22日を予定しています。